

静岡松涛タイムス 第63号

発行元：静岡県本部広報部

責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL：http://www.shizuoka-karate.com/ (公式 HP)

http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/ (広報部)

Photo：さつき

第1回藤枝支部空手道大会



平成25年3月24日(日)藤枝市の県立武道館に於いて第1回藤枝支部空手道大会が開催されました。幼年から小学生まで33名の選手が午前中は型、午後は組手と熱い戦いを繰り広げてくれました。“一生懸命やろう”という気持ちは伝わる一方、空手で求められるスピード 極め 着眼 気合 など、まだまだ成長できる選手が多くいる印象でした。午後の組み手試合の前に行われた演武をみた選手には大変良い刺激になったことと思います。私自身初めて審判員をやらせていただき、空手に対する視野が広がり、大変よい勉強になりました。自分に勝つ気力と基本を身につける向上心をもって日頃の稽古に取り組む大切さを改めて感じました。今回の貴重な経験を今後の稽古に生かしていきます。最後に今大会にあたり、足を運んで頂いたご来賓の皆様、藤枝支部指導員、ご父兄の皆様など、多くの方々のご協力に感謝し、心よりお礼申し上げます。(レポート：藤枝支部 増田貴光)

第12回3支部交流試合



平成25年3月24日(日)、穏やかな春の日差しの中、島田市総合スポーツセンターローズアリーナにおいて、「第12回3支部交流試合」が開催されました。兄弟支部である鷹生館、将陽館、拓空館の三支部が、道場生の交流を目的に始めた本大会も回を重ねること早や12回、インフルエンザ等の影響で、棄権となる選手が多かったものの、午前の型試合、午後の組手試合共に小さな大会とは思えない盛り上がりを見せていました。本大会が初試合という選手も多く、緊張した表情が印象的でしたが、そんな選手たちも一旦試合が始まると、普段の稽古では見られない真剣な表情に。試合に参加することで選手はさらに大きく成長すると改めて実感しました。私は大会を運営する立場として参加させていただきましたが、準備や進行など、段取りの面ではいまひとつ順調ではなかったように思います。選手の成長に負けないよう、自分自身も指導員として成長しなければと思いました。最後になりましたが、大会を支えていただいた先生方、運営に関わった指導員の先生方、コート係を引き受けてくれた父兄の皆様、本大会へのご協力に心より感謝申し上げます。(レポート：藤原誠二郎 島田拓空館支部)

第13回松永杯水上杯争奪静岡市空手道大会



今年の桜は早咲きで、その花びらもまさに散りなんとする3月31日(日)に静岡市北部体育館にて第13回松永杯・水上杯争奪戦が開催された。組手優勝は(松永杯)いさみ道場、型優勝は(水上杯)は烈士館となった。いずれの団体も昨年の覇者でもあり、安定したレベル感を示していた。また、新しい顔ぶれとして、

勝正館が型で3位を獲得した。今年の大会では、観客の為にちょっとした工夫がされた。それは従来、観客と試合場の間に置いていた記録係の机を、奥の本部席側へ移動したことである。これに伴い、型も観客に向かって演武するという形になった。これは観客席からの見渡しを良くし、選手の活躍をより良く観てもらふ為ということで、松永師範からの指示で実施したのだが、御父兄からの評判も上々であった。普段、大会の目先の運営にのみに気を取られ、観客の立場に立った配慮にはなかなか思いが至らなかった自分だが、誰の為の大会かを考えての運営を学ばせて頂いた。今年は昨年より23名多い199名のエントリーがあったが、中学生・高校生のエントリーが少なく、残念…。例年の傾向ではあるが、引き続いての課題でもある。個人的には昨年、組手3位、型2位を奪取した春風館が、今回は無冠に終わったものの、小学1年男女の組手で1~3位を独占する快挙を遂げたことは、喜ばしいことであった。今大会の結果を記す。

【松永杯】〔優勝〕いさみ道場〔準優勝〕安倍川支部〔3位〕烈士館

【水上杯】〔優勝〕烈士館〔準優勝〕いさみ道場〔3位〕勝正館(レポート：静岡北支部春風館 遠山 貴志)

県指定選手強化練習・審判講習会



4月21日(日)に静岡市北部体育館にて、県指定選手強化練習が行われた。前年の県大会の小学3年生以上にて、型・組手共に3位以上に入賞した選手が県本部より強化指定され、今回の強化練習は指定選手のみで行われた。午前中は大きくグループ分けしたものの、全体での基本の確認からのスタートとなったが、

当然、上級者集団という事で序盤より高度な講義となった。指導陣のアドバイスを即座に理解し、対応する能力は、さすがに県で表彰台を獲るだけの事はある。毎年、入れ替わり制のある指定選手枠だが、常連選手に加え、今回はニューフェイスが目立った。昼の休憩をはさんで午後からは、組手を中心に試合形式での実戦が行われた。本格的に開幕する公式戦に向け、試合勘やコートの感触等を確かめるかのように、各個人が調整をしている姿が各コートにて見られた。並行して審判講習が行われ、ルール・統一事項の確認があった。年々、高度に進化する組手試合に対応すべく、参加者達は真剣な表情で受講していた。

第14回東海北信越地区空手道選手権大会



平成25年5月12日(日)に、東海北信越地区空手道選手権大会が岡崎中央総合公園総合体育館において静岡・長野・福井・岐阜・愛知5県の強豪がそろい、総勢800余名の参加により華々しく開催されました。小・

中・高・一般の型・組手試合はもとより、松涛連盟ならではの車椅子や古典型の試合も加わり、多くの熟年選手も交じって日頃の練習の成果が競われました。中でも特に小学校高学年の選手の出場が多く、色帯に惜しくも破れ涙を流す黒帯の選手や、ご父兄達の大きな声援に、相手からの顔面への反則にもめげず勝ちをとる子供など、大人顔負けの見応えのある熱気に満ちた試合が繰り広げられました。私は、小学校5年生男子の型・組手試合の審判をさせていただきました。全国でも屈指の激戦区である東海ブロック大会とあってそのほとんどが黒帯で互角の戦いが多く、今回ほど審判としての力量が問われ、勝敗の見極めの難しさを痛感させられた大会はありませんでした。しかし、終了後には達成感を感じ、このような機会を与えていただいたことに深く感謝申し上げる次第です。又、それぞれに出場した選手たちも、この大会の中で得た悔しさや喜びなど、さまざまな体験をこれからの稽古に生かし、それぞれの目標に向かって頑張っていたと思います。本日はありがとうございました。(レポート：青島支部 金子 二郎)

お知らせ

いよいよ新年度がスタートし、県内各支部での活動も始動した事と思います。さまざまな支部活動・各種イベント等がありましたら取材に参上いたしますので広報部まで御一報ください。取材に参上できない場合でもレポートと数枚の画像があればタイムス及び広報部サイトに掲載できますので、あわせて一報いただきますようお願いいたします。(広報部)